

(六千七百デシヤーチン)であるからして、一人當り八百二十平方米(十八・一平方サーゼン)であつたが、千九百二十一年には其面積一萬六千ヘクター(九千七百デシヤーチン)に増加した。

果實の栽培も試みられたが、未だ愛好家的の範圍を脱して居らず、果實の栽培は經濟的に採算不可能なるを以て將來の發達も見込なく、纔かに草實の栽培のみが發達を見せて居るに過ぎない。

養蜂の發達も緩漫にて、千九百二十年現在の養蜂家は二百九十二戸であるが、養蜂には極めて良好なる條件であるを以て、遠からず急激なる發達をなし得る可能性があるにも拘らず、蜂房の數は今だ千九百に過ぎない。

養鶏。縣内に於ける鳥類の飼育は工業的性質を有せず、たゞ市の近郊に市場供給用として飼養せらるゝのみであつて、其數字は左の如くである(千羽單位)。

年次	鶏	鵝	鳥	家鴨	七面鳥
一九二〇年	四二二・二		一九・二	一六・九	四・九
一九二一年	三四二・七		二〇・七	一七・三	五・二
一九二二年	三一五・七		二六・一	二四・三	五・六

漁業。漁業は主として貝加爾湖の沿岸地方に行はれ、市場へ搬出せられる貝加爾鮭が漁獲せられ、又其他としては鱒魚、タイメニ、シグ、シチユーカー、オークニ等である。

狩獵。山嶽地帯の住民にとつて狩獵は特に重要な意義を有し、東部薩彥、沿貝加爾の諸山及び大森林は同地方住民の生業たる狩獵の好適地である。尙ほ夫等の地方にては朝鮮松の『果實』も採取せられて居る。

森林。イルクーツスカヤ縣の森林面積は七千二百七十萬ヘクター(六千六百六十萬デシヤーチン)、即ち全面積の八十七パーセントであるが、其中使用可能森林地は五千二百四十萬ヘクター(四千八百萬デシヤーチン)であつて、縣の全面積に對して三分の二に當り、森林地の割合より見ればイルクーツスカヤ縣は特種の縣と云ふべきである。樹木の種類は主として落葉松、松、杉、樺、其他であるが、森林は未だ充分調査も行届かず、森林中手入れせられたものは纔に七百三十萬ヘクター(六百七十萬デシヤーチン)に過ぎない。現在經營せられつゝあるものは四百萬ヘクター(三千七百萬デシヤーチン)、即ち使用可能林に對する八パーセントである。

森林業の將來は、工業及び運輸業の發達に依る縣内の需要増加、並びに比較的高價なる半製品の縣外輸出を可能ならしめる木材加工業等の發達に依つて決定せられるのである。北氷洋の航路開始、及びレナ河、並びにエニセイ河口に木材搬出の輸送機關完備せば、外國への木材輸出上イルクーツスカヤ縣の森林工業は多大なる將來を有して居るものである。

工業。ヤクーツスカヤ州産金地帯の一部がイルクーツスカヤ縣に編入せられた結果、同縣の採掘業方面に於ては採金業が第一位を占めるに至つたが、其採金業の主力が集中せられて居るのはオレクミンスキー區である。此オレクミンスキー區はウキチム及びオレクミンの二系に分類せられるが、前者に於て最も重要な砂金地はレナ河へ流入する支流の流域には比較的狭少なる面積に最も豊富なる砂金地が存して居る。尙ほ豊富なる砂金地はレナ河へ流入する支流の沿岸にもあるが、此オレクミン及びウキチム砂金地に産する砂金は、其大いさを以て誇るに足るものであつ

て、百二瓦(四分の一)乃至夫れ以上に達する自然塊を出す事も屢々である。千九百十四年にはウキチム鑛區に於て十一・四八噸(七百一布度)の金を産し、又オレクミン鑛區に於ては三・五八噸(二百十九布度)を産した。千九百二十一年末には前レナ金鑛會社の全砂金地、並びに約二十九萬六千平方呎(二十六萬平方デシヤーチン)に達する前オレクミン、ウキチム兩鑛區の諸企業も、「レンゾロト」トラストに編入せられた。戦前レナの砂金地は露國採金高の三分の一を示し、千九百十三年中の従業労働者は七千六百四十一人であつた。

其他縣内には石炭も亦豊富であるが、特にチエレムホーウオ炭坑は極めて重要なものであつて、クズネーツクアルタイ炭坑に次ぐ西(比)利亞最大の炭坑である。炭田は鐵道幹線の近くにあり(イルクーツスクより百二十八軒或は百二十露里)、其出炭量は千九百十六年に七十六萬九千九百噸(四千七百萬布度)、千九百十七年には百二十六萬九千五百噸(七千七百五十萬布度)であつたが、千九百二十三、四年度最初の三箇月間には十一萬四千四百噸(六百八十萬布度)にて、前年度の同期に比し二十三パーセントの増加である。

其他の礦物としては石墨及びイルクーツスキー郡の石綿を記載せねばならないが、戦前の産額前者は五噸(三百布度以上)、後者は二十四噸半(千五百布度)であつた。全東部西(比)利亞の鹽需要に對し、其半數を供給するイルクーツスク製鹽工場も亦多大の意義を有するものであるが、千九百十六年には一萬六千三百八十噸の製鹽量を有し(百萬布度)、千九百二十年には五百九十噸(三萬六千布度)に低下し、九千五百噸(五十八萬布度)まで増加せる千九百二十三年までは此状態を繼續した。製鹽工場に於ける労働者數は戦前の三百十六人に比し三百八十人に増加し、千九百二十三年の労働者一人當り生産額は二十六・二噸(千六百布度)であつたが、千九百十三年には四十九噸、即ち三千布度であつた。

イルクーツスキー縣に於ける各種工業別に依る最近の工業状態は、千九百二十年の國勢調査及び千九百二十三年の市勢調査比較統計に依つて見れば左の如くである。

工業別	一九二〇年		一九二三年	
	労働者	動力工場有	労働者	動力工場有
礦物、粘土及び土の採掘及加工	九九二	六	七九二	三
鑛山	四、四五九	九	四〇二五	九
金	八一二	七	五六八	九
機械	七七〇	六	四八三	五
製材	四二〇	一〇	二四八	五
化學	三八四	二	三四三	二
食品	九五二	二	五一三	三〇
皮革及び毛皮	一、二八四	八	八二八	六
印刷	四五九	六	二二七	二
其他	二九一〇	二〇	一九七一	一四
計	一三、四四二	九七	九、九八八	八五

前記の兩調査期間を比較すれば、操業中の工場は三十五・六パーセント、労働者數は二十五・七パーセント、動力機所有の工場數は十二・一パーセント方々減少を示して居る。

工業經營の形式より見れば國營は五十九・五パーセント、産業組合經營の分は六十五・五パーセントを減じたが、私營工業は纔に二十一・五パーセントを減じたに過ぎない。一工場當りの平均雇傭労働者數は之れと反對に、國營工場にては前記の期間中百五・五パーセントを増加し、産業組合經營の工場にては百三十・八パーセントを増加したが、私營工場の一工場當り平均労働者數は四十パーセントを減少した。随つて國營工業、夫れに亞で産業組合經營工業は、縣内に於て最も大なる工業である。主要工業別としての千九百二十二年後半期の生産額は、石炭の採掘十五萬三百百噸（九百三十四萬九千七百噸）、銑鐵千六百六十噸（七萬八百布度）、マルテン鑛の生産五百五十三・六噸（二萬三千八百布度）、製鹽量四千八百八十六噸（二十九萬八千三百布度）、製材一萬六千立方尺（五十六萬八千立方尺）、皮革五萬一千枚である。

千九百二十二、三年度に於ける労働者の生産能率増進は、前年度と比較して四十二・二パーセントを示し、原料及び燃料の工場供給状態は、千九百二十二年より千九百二十三年にかけて圓滑となつた。

千九百二十五年イルクーツスカヤ縣の有せる大工場は六十九にて、其労働者數は一萬九百六十四人であつたが、其中大規模の企業を挙げれば『レナゴリドフェリデ』（砂金業）、チエレムホーウオ及びバルホートウオ炭坑である。

交通。鐵道の總延長は千六十一軒にて、車馬道は二千四百二十四軒、水路はレナ河が二千五十二軒、キレンガ河が五百四軒、ウキチム河が五百八十七軒、アンガラ河が千七十八軒である。

商業。最も大なる商業の中心はイルクーツスク市にて、同市は常に縣内の商業及び分配の意義を有するのみならず、殆んど全東部西比利亞に對して其意義を有して居る。縣内に於ける他の市場は多くは地方的意義を有するのみ

て、之等は縣の全商業上從屬的關係にあるイルクーツスク市場に支配せられて居る。イルクーツスクは戰前支那及び極東との通商上、貨物通過地として重要な意義を有し、鐵道統計に依れば千九百二十二年より千九百十六年に至る五箇年間に於て、イルクーツスク驛への發着貨物數は著の分が八十萬二千六百噸（四十九萬九千九百布度）、發送の分が九萬八千三百噸（六百萬布度）であるが、到著貨物數が發送貨物よりも遙かに多數なる事は、イルクーツク及びイルクーツスカヤ縣が生産縣でなく消費的である事の結果である。イルクーツスク驛の貨物取扱高は、同縣全體の貨物取扱高の七十五パーセントであるを以て、前記の數字は縣全體の状態を説明するものである。到著貨物中其數量を以て第一位にあるものは燃料にて、第二位にあるものは穀物であるが、内亂及戰時共產主義時代はイルクーツスクと他の經濟的地方との圓滑なる商業關係を破壊し、新經濟政策の初期に於てすらもイルクーツスク市場は純然たる地方商人の閉鎖的市場となり、漸く千九百二十三年より此閉鎖が破られるに至り、手近の國外市場及び國內市場との取引が増加し初めた。現在縣内の大口取引は全部國家の經濟機關及び産業組合の掌中であり、千九百二十三年前半期の産業機關所屬状態は、千九百二十三年七月一日現在營業鑑札交附別に依り、イルクーツスク市の分は國營商業機關が二十九、産業組合商店が二十八、私營商店が千三百四十七、即ち全體の九十六パーセントであつた。

千九百二十三年九月一日現在の商店等級別は左の如くである。

等級別	國營商店	産業組合商店	私營商店	計	割合
五等	八	二	三	一三	〇・九

ソウエート聯邦總覽

計	一	二	三	四
	等	等	等	等
	二九	一	一	八
	二七	一	一七	七
	一、三四七	一七三	五〇〇	二二
	一、四〇三	一七三	六五〇	四二
	一〇〇%	一二・三	四四・六	三〇

三九〇

所得稅徵收機關の算定に依れば、千九百二十三年前三箇月のイルクーツスク市に於ける商店の取引高は、國營商店が二百九十六萬七千九百留(五十三パーセント)、産業組合經營商店が四十四萬六百留(十二パーセント)、私營商店が百〇十九萬八千留(三十五パーセント)であつて、國營商店の一商店當り取引高は組合商店の一商店當り平均額の四倍に當り、私營商店の約八十倍に相當して居る。イルクーツスク商品取引所の取引増加は、商取引が益々取引所内の取引となりつゝある事を示すものである。

産業組合、(消費組合)。千九百二十四年一月一日現在の「イルクーツスク縣聯合」の下層組合は百四十五を有し、其中農村下層組合は組合員二萬七千五百一人を數へ、労働者消費組合は一萬八千八百八十一人の組合員を有して居るが、前記の組合中一販賣所のみを有するものは七十七、多數の販賣所を有するものは五十一組合である。持株出資金は農村消費組合が全部にて三萬八千八百留、労働者消費組合が五萬二千八百留であるが、組合加入の比例關係は農村地方に於ける農家は三十八・六パーセント、労働組合加入労働者に対する労働者の分は五十四・二パーセントである。消費組合は地方に於て農業組合及び信用組合の業務を盛んに營むに至りつゝある。

公共事業。千九百二十三年の調査に依れば、イルクーツスク市及び準市に於ける敷地の數は一萬八百八十八筆にて、其中建築物を有するものは一萬六百五十二筆であり、建築物中住宅は一萬六千八百棟、非住宅が一萬二千七百八十四棟、二萬九百五戸の住宅と四萬八千四百四十一室を有し、其總面積は七千三百一十一萬八千五百平方(千五百四十四萬七千平方サーゼン)である。上水道はイルクーツスク市にあるが甚だ以て不完全なるものであり、又發電所はイルクーツスク、ジマ及びチエレムホーウオの三市にある。

千九百二十二、三年度の地方歳計は、九十三萬七千商品留の支出超過であるが、之れ地方歳計の三十六パーセントである。

地方歳計。イルクーツスク市及び準市の歳計は千九百二十三、四年度が三百二十二萬六千留であつたが、千九百二十四、五年度には五百二萬六千留として計上の豫定であつた。歳計中租稅收入は四十四パーセントに當り、其他の分は非租稅的收入にて、國家の補助は千九百二十四、五年度四十四萬八千留である。同年度の歳出中教育費は百六十萬三千留にて、總計に對する三十一・九パーセントに當り、國民保健費は六十一萬四千留、即ち十二・二パーセントである。

教育及び保健(學校)。千九百二十四年の統計に依ればイルクーツスク市及び準市に於ける教育機關は、醫科及び社會科の兩分科を有する大學があり(千九百二十二年開校)、學生數二千二百三十一人、教授其他二百三十二人を有し、又大學には附屬労働者豫備科があり、其生徒數四百三十八人である。工業經濟研究所、醫學研究所、農業研究所、工業技術研究所、音樂研究所及び教育研究所二を有し、夫等研究所の學生は合計八百六十人、教師百二十一人である。縣内の初等學校は四百四十二校なるが、其他に尙ほ四千四百六十二人の兒童と、百四十六人の教師を有する七年制學校二

十二校、及び六千二十人の児童と二百二十八人の教育者を有する十年制綜合學校十二校を有して居る。幼稚園は四、其園兒數二百四十四人、指導者九人、職業學校は十六校にて其生徒數三百二十人を有し、又工場見習職工學校一校がある。政治教育機關としては普通教育初等學校二、同中學校三校を有し、其生徒數六百九十九人である。文盲退治學校及び教育不足者教育學校は二十五校にて、其生徒數は六百七十人を有し、又ソウエート政黨學校は初等學校一、中等學校一を有し、其生徒數總て二百三十六人である。圖書館七十五、農村讀書室五十七、俱樂部三十二、活動寫真館五、劇場一及び博物館二である。

千九百二十五年一月一日現在、の縣内療病機關は、九百四十七人の收容力を有する病院三十一、診療所十一、醫療所三十六にて、其收容力は六百六十七人、補助醫駐在所五十五である。

露亞經濟調查叢書
勞農露國研究叢書
既近刊總目錄

露亞經濟調查叢書

既刊

亞細亞露西亞の國土と産業(露亞經濟調查叢書第一編)

亞細亞露西亞の國土と産業

露領極東の農業と植民問題

露領極東の鑛産

露領極東の鑛産

勞農露國の産業と電化計畫

外蒙共和國

外蒙共和國

滿洲植物誌

滿洲植物誌

滿洲植物誌

滿洲植物誌

既近刊總目錄

國土編

産業編

上卷

下卷

上編

下編

第一卷

第二卷

第三卷上

第三卷下

既近刊總目錄

露領沿海地方の自然と經濟
露領沿海地方の自然と經濟
勘察加調査書

露領極東の林業と林況

露領極東地誌

露領極東地誌

亞細亞露西亞の交通

沿海州及黑龍州産の小麥、ライ麥の穀粒研究

露領極東に於ける職業組合の組成

勞農露國土地法の研究

露國農民の課税及其他負擔重度の研究

露領沿黑龍地方の農業

勞農露國の生産と消費

露領黑龍州の氣候、土壤及植物研究誌

露領黑龍州の氣候、土壤及植物研究誌

ソウエート聯邦總覽

上 卷
下 卷
第一編

上 編
下 編

上 卷
下 卷
第一卷

近 刊

ソウエート聯邦總覽

ソウエート聯邦總覽

ソウエート聯邦總覽

ソウエート聯邦總覽

露領黑龍州の畜産業

露領黑龍州の畜産業

勞農露國の單一農業税

勘察加調査書

勘察加調査書

滿洲植物誌

滿洲植物誌

露領極東の資源と産業

勘察加旅行記

勞農露國の農業税

滿洲の森林

既近刊總目錄

第二卷
第三卷
第四卷

第五卷
上 卷
下 卷

第二編
第三編
第四卷 上編
第四卷 下編

上 卷

滿洲の森林

ソウエート聯邦經濟地誌

亞細亞露西亞の住民

ソウエート農村の研究

露國に於ける諸民族の研究

露領極東の鑛業利權

ソウエート聯邦の鑛油資源

露國に於ける資本主義の發達

ソウエート聯邦區劃自然及經濟地圖

(以下續刊)

勞農露國研究叢書

既刊

第一編 統治組織及機關、各聯盟共和國概要

第二編 外國人の法律的地位、私營事業及私有財産權、工業組織、トラスト模範定款、露國工業法概要、勞働需給關係

第三編 革命後の農村經濟狀態、農村經濟統計、國營事業、露領極東及西比利の經濟事情、自治共和國及自治州

第四編 通商事情、外國貿易の制度及組織

第五編 工業經濟に關する指導的意見、共產黨第十二回大會決議、工場委員會、國民教育

第六編 社會保險、勞農國家と教會、言論機關、地方統治組織、軍事

昭和二年十一月十日印刷
昭和二年十一月十五日發行

ソウエート聯邦總覽 第四卷

不許複製
定價

定價金貳圓也

南滿洲鐵道株式會社編纂

代表者 佐田弘治 郎

發行所 荒木利一 郎

大阪府豊能郡箕面村平尾四九九

印刷所 滿洲日報社印刷所

大連市東公園町

發行所 大阪毎日新聞社

大阪市北區堂島(振替大阪四五〇番)

同 東京日日新聞社

東京市丸之内(振替東京二八〇〇番)

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
LIBRARY
540 EAST 58TH STREET
CHICAGO, ILL. 60637
U.S.A.

UNIVERSITY OF CHICAGO



